

リアル「シコぶんじゃった。」周防

選手たった2人

母交「立大相撲部」救う



周防 監督

名誉監督 就任会見

ゴタゴタ続きの相撲界に熱いエールを送った周防監督—東京・西池袋(撮影・飯田英男)

周防 正行
(すお・まさゆき)
1956(昭和31)年
10月29日生まれ、61歳。東京都出身。

不祥事続きの相撲界にも言及
「子供が憧れる世界であって」

立教大文学部仏文科卒。1984年の成人映画「妾様家族 兄貴の嫁さん」で監督デビュー。92年の「シコぶんじゃった。」、96年の「Shall we ダンス?」で日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞。同作に主演した草刈民代(52)と同年に結婚した。2007年の「それでもボクはやってない」など話題作を多数手がけ、16年に春の紫綬褒章を受章。

チーム活性化のため、相撲好きの周防氏に白羽の矢が立った。元横綱日馬富士問題など不祥事続きの相撲界にも言及し、「子供たちが憧れる世界であってほしい」と願った。

映画「シコぶんじゃった。」などで知られる周防正行監督(61)が母校・立大相撲部の名誉監督に就任し13日、東京都内で会見した。今年、創部100年目の伝統校だが、選手はたったの2人。部員獲得と

恩返し快諾！
部員が激減し、団体戦出場が危うい。この日、西池袋の立大で行われた会見に吉岡知哉総長らと出席した周防監督は、名誉監督の就任要請に対し、「恩返しのためにも素直に『はい』と言った」と即決だったことを明かした。

周防監督の出世作となった1992年公開の「シコぶんじゃった。」は、本木雅弘(52)ふんする大学生が教授に頼まれ、8年生部員(竹中直人、61)1人が奮闘する相撲部に助ける人として入部活躍する物語。相撲の魅力に触れて本気で勝利を目指す姿は感動を呼び、映画賞をにぎわした。同作のモチーフとなったのが、立大相撲部の部員減少問題だった。

次回作は女性相撲テーマ!?

勧誘、ビデオ制作
周防監督は新人勧誘のためのビデオメッセージを制作し強力援護。4月に相撲部創部以来初の女性主将が誕生することもあり、「開かれた相撲界を作るべきだし、僕としては女性相撲をテーマにした今までない作品を作ってみよう」と創作意欲をかき立てられている。

もともと、第51代横綱で1971年に27歳で亡くなった玉の海に魅了されて以来の相撲ファン。日馬富士の傷害事件からさまざまな問題が続く相撲界について「ゴタゴタが出るたびに嫌気がさす人もいると思う。僕は父親と相撲を取りながら自分の成長を感じた世代。相撲界は子供たちが憧れる世界であってほしい」と願っていた。

団体戦出場危機

同部は1919年創部の伝統校だが、70年代から部員が減少し、82年から12年間はゼロ。柔道部員らが助っ人で試合に出場した。「シコぶんじゃ

100年目の伝統校でhall we スモウ?